

## 東京方面企業大学訪問感想文

周りの環境に圧倒されながらも、自らの進路と向き合ってきた4ヶ月間。これからの方向性は定まってきたものの、自分の中ではまだ漠然としたものでしかなかった。今回の東京研修を機に少しでも自分の進路が明確になればと思い、参加することを決めた。

### 1. ディレクトフォース

講演をして頂いた近藤さんは筋電義手の開発や普及に取り組んでいる。特にものづくりは失敗することも多いような気がするが、近藤さんは失敗したことも含めて全てをプラスに捉えていた。また、「楽しく働けることが一番」という言葉が印象に残った。確かに自分の取り組んでいることを話している近藤さんは本当に楽しそうで、聞いている側の私たちまでも楽しかった。楽なことばかりではないが、楽しんで働けるような仕事に就きたいと思った瞬間だった。

グループセッションでは三人の方から話を伺った。海洋研究やその成果を社会に発信されている角田さんは地球温暖化について、CO<sub>2</sub>削減という方法のほかに温暖化に適応していく方法もあると話された。私は今まで温暖化を食い止める方ばかりに目を向けていたが、そういった考え方もあるということに驚いた。適応という方法は現実的には難しいかもしれない。しかし、違う視点から物事を見ることの大切さに気付いた。

2人目のブラジル駐在歴12年という安達さんには、外国の方と接するとき意識すべきことについて詳しく話していただいた。文化の違う相手と自分の考え方の違いをよく理解したうえでコミュニケーションをとること、そして自己表現する力が大切だという。安達さんの日本よりブラジルでの生活の方がいいという言葉には驚いたが、日本での生活だけでなく外国の生活も経験しなければわからないのだと思う。

3人目の太田さんも、外国の方とより良い関係を築くためには、まず自分のこと、日本のことを理解しなければいけないとおっしゃっていた。外国の方に日本のことを教えられるかと言われたら、そんな自信はない。しかし、国際社会で生きていくためには必要なことである。外国文化を学ぶことはもちろん、日本文化も尊重し理解を深めていきたいと思った。

普通に生活していたら聞けない貴重な話ばかりで、今まで知らなかったことを沢山学べた有意義な時間となった。この4人から聞いた話やアドバイスを参考に、自分の望む道に進めるように頑張っていきたい。

### 2. 外務省

私が外務省を選んだのは、以前から国際関係の仕事に興味があったからだ。実際、外交と言っても沢山の専門分野にわかれている。外務省の方から聞いた話だと、興味のある分野だけでなく様々なことを学んでもらうために、2~3年で他の課に異動となるそうだ。また、外務省の職員の半数以上が海外で働いていると聞いた。外務省が日本にとって、世界とつながるための重要な機関であることを改めて知ることができた。

二高の卒業生の先輩からも話を聞くことができた。その先輩は東大文科一類卒で、世界と日本をつなげたいという思いから外交官を目指したという。大学時代は紛争のあったウガンダで当時の少年兵に直接話を聞いたり、トロント大学に留学したりと、海外経験を積み現地で様々なことを学んだそうだ。担当である国連政策課は、安保理などの国連での政策、例えばシリア内戦や北朝鮮のミサイル発射への制裁などについて、毎日意見交換をしているそうだ。豊富な知識やコミュニケーション力、自己表現力がなければ困難な仕事であるが、難しいからこそ楽しそうだしやりがいを持てるのかなと思った。その先輩も、外国の方と関わらううえで大切なことは違う価値観、考え方を受け入れ、理解することだとおっしゃっていた。普段の生活でも、自分の考えも相手の考えも大切に、新しい考えを生み出す力を身につけていきたい。

今回の外務省訪問でさらに世界と関わる仕事がしたいと思うようになった。今の私には外務省で働くなんて、夢のまた夢だけれど、自分の興味のあること、好きなことを仕事でできるのは素敵なことだと思うし、私も将来そういった仕事に就きたいと思った。1時間という短い時間の訪問だったが、二高の卒業生の方から高校での生活から大学生活、外務省の仕事まで様々なことを聞いて良かった。

### 3. 二高OB・OG座談会

今回の東京研修で一番私に刺激を与えてくれたのがこの座談会である。私は3人の大学生と衆議院で働いている方に話を聞くことができた。さすが二高卒の東大生、話を聞いているだけで本当に楽しかった。物足りないくらい、あっという間に時間は過ぎた。

ある先輩から唐突に、自分は何なのかということも10分間語れるかと聞かれた。簡単そうだけれど、いざ話そうとすると10分も続かない気がした。その先輩が言うには、自分は何者なのかを自分自身がわかっていないと、将来したいことが見つからないそうだ。自分の好きなこと、強みを意識しておくことで目標もでき、自分の軸を維持することができる。抽象的ではあったが、何となくわかる気がした。将来やりたいことを探すことも大切だが、自分がどういう人物なのかをはっきり把握しておこうと思った。一浪した先輩は、高校生活も浪人生活も現在の自分を形作っている大切な経験だと話していた。この先輩の話聞いて、進路で悩んでいた私の気持ちはなぜかすっきりした。特に将来のことが明確になったわけではなかったが、今自分がやっている全てのことは決して無駄なことではないと、前向きな気持ちになれた。

衆議院で働いている方にも貴重な話を聞くことができた。自分を高めるために一番大切なことは、「目標を高く定めること」。簡単に達成できる目標なら何の進歩もなく現状維持で終わってしまう。難しいくらいがちょうどいい。そんな目標を持つことで自分を成長させることができる。そしてそれに挑戦した人と挑戦しなかった人では天と地ほどの差がある、ともおっしゃっていた。私も中学のころから、どんな目標でもぎりぎりまで高く設定するようにしていた。また高校入学当初から様々なことに挑戦するということも目標としていた。そのため、この話にはとても共感することができた。普段なら絶対に聞けないような方の話を身近で聞き、私の話まで聞いていただいて、感無量である。

二高での3年間は卒業生にとって掛け替えのないものなのだと思う。自分のことや高校生

活について、あれだけのことを私たちに語れるなんてさすが二高の卒業生だなと思った。そして私も3年後に、後輩に自分のことを語れるくらいにならなければいけないと思った。話す機会はなくとも、それを意識して生活すれば充実した3年間を送れることは間違いない。先ほども言ったように、この座談会は私に一番刺激を与えてくれた。先輩方の話は、これからの二高の生活や進路選択に大きく影響するだろう。

#### 4. 東大見学

東大は手の届かないところ、天才ばかりがいるところというイメージしかなかった。しかし、実際東大生と会って話してからそのイメージは覆された。というより、新たなイメージが加わったと言った方が正しいかもしれない。東大生はガリ勉ばかりではなかった。私が話した東大生は何となくオーラが二高生と似ていた。二高生もそうだが、話を聞いているだけで自分まで楽しくなる。東大生も同じだった。知識の豊富な人の話は本当に面白いし、何より説得力がある。

私の班の担当だった岸さんは将来、国語を教えることが夢だそうだ。一つ驚いたのが、国語より数学の方が得意であるにも関わらず、自分の好きなことや興味のあることを仕事にしたいと考え、数学ではなく国語を教えることを選んだそうだ。先ほどからも言っているように好きなことを将来の仕事にできるのは素敵だなと思った。モチベーションを保つ方法を岸さんに聞いたところ、東大に入ってからやりたいことリストを作ったという。やる気がなくなったり何か落ち込んだりしたときにそのリストを見てモチベーションを上げたそうだ。この方法は楽しそうなので早速実践してみたい。

日本一の大学は施設も立派だった。特に駒場キャンパスの図書館の書籍、自習スペースはすごかった。書店には売っていないような本も沢山あって一日中そこにいても飽きないだろうし、そこで勉強したら捗るだろうと思う。

東大生は大学での生活も勉強も全てを楽しんでいるように見えた。東大生だからこそこんなに充実した学生生活を送れるのかもしれない。でもその裏には並々ならぬ努力と苦悩があったはずだ。私も少しでも東大生に近付けるように頑張りたい。

東京研修を通して、お互いを高め合えるような友達もできた。同じような目標を持っている人がいる二高の環境は素晴らしいなと思ったし、改めて二高に入って良かったなと思った。

今回聞いた話のなかで、特に「目標を高く定めること」、「好きなこと、興味のあることを極めること」という2点が印象に残った。停滞気味だった私のモチベーションは2日間で跳ね上がり、完全に進路が決まったわけではないが、少しずつ未来像が浮かんできた。よく、高校入学、大学入学はゴールではないという言葉聞く。ゴールではないけれど、将来のための重要な通過点だ。だからこそ、焦らずもっと時間をかけて悩み、考えて答えを出せばいいのかなとも思えた。

本当に研修に参加して良かった。この先絶対壁にぶつかるだろう。でもそんな困難も乗り越えられそうな気がしてきた。自分の可能性を広げられるように、そして自分だけの道を歩いていけるように3年間努力していきたい。

最後に、このような機会を与えて下さった沢山の方々、本当にありがとうございました。